

1. 科目名 (単位数)	公衆衛生 (2 単位)	3. 科目番号	EDHE3314				
2. 授業担当教員	澤田 晋一		SSMP3335				
4. 授業形態	講義、ディスカッション、発表	5. 開講学期	春期				
6. 履修条件・他科目との関係							
7. 講義概要	<p>公衆衛生は、健康上の問題を集団で捉えることにより、疾病の予防や健康増進のための組織的な対策や制度を考える学問である。福祉や医療に携わる専門職には、必須の分野である。</p> <p>本科目では公衆衛生の概念や基本的な考え方、我が国が直面しているさまざまな健康問題（感染症、生活習慣病など）の現状と課題を学び、疾病予防や健康増進のための公衆衛生活動について考察する。さらにこれからの保健・医療・福祉の方向性と互いの連携の在り方について、学生自身が考察できる力を身につけることができるようにする。</p>						
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生の歴史と概念について説明できるようになる。 2. 保健統計の各指標について説明できるようになる。 3. 疫学の考え方について説明できるようになる。 4. 各健康問題（感染症、生活習慣病など）の現状に関心を持ち、課題の解決に対して意欲を持てるようになる。 5. 専門職として理解しておくべき公衆衛生に関する知識や考え方を習得し応用できるようになる。 						
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容の復習のために、適宜提出物を求める。 2. レポート課題：教科書の各章末に示されたミニ・レポート課題や配布資料のトピックについて考察した内容を 1600～2000 字程度でまとめる。 						
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 小山 洋 監修、辻 一郎・上島通浩 編集『シンプル衛生公衆衛生学 2024』南江堂、2024。</p> <p>【参考書】 森本兼襄 (監修)『現代医学と社会—〈医学概論〉講義』朝倉書店。 厚生統計協会編集・発行『国民衛生の動向 2019/2020 年』。 清水忠彦・南波正宗『わかりやすい公衆衛生学』ヌーベルヒロカワ。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。</p>						
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健統計・疫学などの用語や考え方を説明できるようになったか。 2. 身近な健康問題の現状に関心を持ち、自らの考えで対処できる力を身につけたか。 <p>○評定方法</p> <p>[日常の授業態度、提出物等を総合して評価する]</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 日常の授業態度 (参加、実践、態度)</td> <td>総合点の 40%</td> </tr> <tr> <td>2. 課題発表・期末試験など</td> <td>総合点の 60%</td> </tr> </table>			1. 日常の授業態度 (参加、実践、態度)	総合点の 40%	2. 課題発表・期末試験など	総合点の 60%
1. 日常の授業態度 (参加、実践、態度)	総合点の 40%						
2. 課題発表・期末試験など	総合点の 60%						
12. 受講生へのメッセージ	<p>少子高齢化が世界で最も進んでいる日本において福祉や保健を志す人は社会の健康問題に常に敏感になることが必要である。新聞などのメディアが報じるニュースをよくチェックし解決策を考えてみよう。あなたが考える対策がこれからの日本の将来を決めるかもしれない。</p> <p>[受講生に期待される学習態度]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業は常に高い緊張感と集中力をもって受講すること。学生の積極的な態度が望まれる。 2. 授業中、授業外に進んで教師に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 3. レポートの提出期限は厳守すること。事情によって提出日に間に合わない場合は講師にそのことを文書で伝え許可をとるようにする。 4. 授業中の私語、携帯電話の使用は絶対にしないこと。守れない場合は退室のこと。 <p>[講師は次のことを実行する]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話をするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 3. 授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用については厳格に対処する。 						
13. オフィスアワー	別途通知する						
14. 授業展開及び授業内容							
講義日程	授業内容	学習課題					
第 1 回	衛生学・公衆衛生学総論 (21 世紀の医学医療の目指すもの。感染症から生活習慣病の予防へ)	事前学習	「公衆衛生」用の学習ノートを準備し、授業に臨む意識を高める。				
		事後学習	配布資料を熟読し、現代の健康と病気とはどういうものなのか、これからの医学・医療はどうあるべきかを考察する。				
第 2 回	公衆衛生の概念および歴史 (古代ローマの環境保健対策、中世ヨーロッパの港で行われた感染症予防対策、ジョン・スノウの功績、高木兼寛の業績、チャドウィックの主張、ウィンスロウの公衆衛生の定義、WHO の健康の定義、疾病構造の変化)	事前学習	教科書の「衛生学・公衆衛生学序論」の章を読んでおく。				
		事後学習	公衆衛生の概念及び歴史について説明できる。				
第 3 回	保健統計 (世界の人口とその推移、何が人口の増加をもたらしたか、人口転換、日本の人口とその推移、合計特殊出生率の推移、健康指標、粗死亡率と年齢調整死亡率、平均寿命と平均余命、罹患率と有病率、患者調査)	事前学習	教科書の「保健統計」の章を読んでおく。				
		事後学習	保健統計について説明できる。				

第4回	疫学（疫学とは何か、疫学調査の手順と留意事項、選択バイアス・情報バイアス・交絡バイアス、無作為化比較試験（RCT））	事前学習	教科書の「疫学」の章を読んでおく。
		事後学習	疫学について説明できる。
第5回	疫学続き（年齢調整死亡率の求め方、相対危険度・寄与危険度の求め方）	事前学習	教科書の「疫学」の章を再度読んでおく。
		事後学習	疫学について説明できる。
第6回	感染症とその予防（感染症の成立要因、感染症予防対策）	事前学習	教科書の「感染症の予防」「生物的環境要因－微生物を中心に」の章を読んでおく。
		事後学習	感染症について説明できる。
第7回	食品と健康（食中毒の原因（病原微生物・自然毒・化学物質）と発生病況、予防対策について、食品の安全性を確保するための法律について）	事前学習	教科書の「食品と健康」の章を読んでおく。
		事後学習	食品と健康について説明できる。
第8回	生活習慣病対策Ⅰ（生活習慣病とは何か、生活習慣病による死亡率、一次予防・二次予防・三次予防の概念、健康日本21（第2次）、ヘルスプロモーションの考え方）	事前学習	教科書の「疾病予防と健康管理」を読んでおく。
		事後学習	生活習慣病対策について説明できる。
第9回	生活習慣病対策Ⅱ（生活習慣病とは何か、生活習慣病による死亡率、一次予防・二次予防・三次予防の概念、健康日本21（第2次）、ヘルスプロモーションの考え方）	事前学習	教科書の「疾病予防と健康管理」を読んでおく。
		事後学習	生活習慣病対策について説明できる。
第10回	環境保健の概要（人間の環境、環境の諸要因と評価、量-反応曲線、環境リスク対策）	事前学習	教科書の「環境保健」の章の該当箇所を読んでおく。
		事後学習	環境の把握とその評価について説明できる。
第11回	物理的環境要因（暑熱・寒冷、騒音、振動、放射線、気圧）と健康障害	事前学習	教科書の「環境保健」「産業保健」の章の該当箇所を読んでおく。
		事後学習	物理的有害要因の健康問題について説明できる。
第12回	化学的環境要因（一酸化炭素、酸素欠乏、有機溶剤、金属、粉じん、発がん物質等）と健康障害	事前学習	教科書の「環境保健」「産業保健」の章の該当箇所を読んでおく。
		事後学習	化学的有害要因の健康問題について説明できる。
第13回	産業保健の概要（産業保健の歴史、労働災害・事故、職業病、安全衛生対策、職場における健康診断と健康増進、ワークライフバランス、職場復帰）	事前学習	教科書の「産業保健」の章を読んでおく。
		事後学習	働く人々の健康問題と予防対策について説明できる。
第14回	精神保健の概要（精神保健と心の働きの理解、ストレスと精神健康の破綻、精神障害の現状と分類、精神保健福祉活動）	事前学習	教科書の「精神保健」の章を読んでおく。
		事後学習	ストレスと心の健康問題について説明できる。
第15回	まとめ	事前学習	今まで学習したことを振り返り、日本の公衆衛生にはどのような問題があるか考えてくる。
		事後学習	公衆衛生全体について学習したことをまとめる。
期末試験			